

特別部会「論点整理」を読み説き、AL型授業づくりの方向と方法、問題点を解説。小中学校には小中学校の環境—子ども—指導文化に適したALがある。習得的AL—活用的AL—探求的ALの連動が要！

◇小中学校編 II◇

※Amazon での取り扱いも開始！

「アクティブ・ラーニングの基礎知識 ②」

—子どもの能力を育てる脳働的な授業づくり—

大好評シリーズ第二弾！

梶浦 真 著

A5版 94頁 ¥980 (税込)

全て送料無料でいたしました



- ★次期指導要領が示し目指す「学ぶ子供の姿」とは？
- ★アクティブ・ラーニングの「指導方法」と「効果」の関係は？
- ★小中学校には小中学校の特質を生かしたALがある！
- ★確かな学力を超えた「したたかな学力の育成」とは？
- ★ちょっとした言葉がけの工夫が、子供の頭をアクティブにする！

★梶浦 真＝「学欲低下」「協働学力」「続・協働学力」「未来を拓く公学力」「疑問だらけの協働学習」など執筆多数。第39回全国協同学習研究大会にて記念講演を担当。多くの公立小中学校と協同で指導法（主に協働的な学習や考え合いの指導—評価）の研究に取り組む。「振り返りの学習化」「協働による課題解決能力の育成」「小中学校におけるALの実践化」などを研究。

★目次から一部抜粋★

第1章. 学ぶ力の充実を目指す能動的な学び

- ・「授業のAL化」とは
 - どの様な授業づくりを意味するのか
- ・日本の授業実践史から見えるアクティブ・ラーニング
- ・小中学校の授業改善と大学の授業改革
- ・授業格差が「学び力」の格差を招く
- ・「確かな学力」を超えた「したたかな学力」の育成
- ・指導法から見たALと目的から見たALの違い
- ・「習得的AL」「活用的AL」「探求的AL」
- ・「習得」—「活用」—「探究」の連動—融合を目指す
- ・脳を働かせる行為を通して能力・学力を育てる
- ・「コンピテンシー・ユース」な学びが、
 - コンピテンシー・ベース・カリキュラムの要
- ・アクティブ・ラーニングを支える共通要素
- ・ALは融合的な「三つ巴（どもえ）」の学び
- ・過疎地や小規模校でのカリキュラム・マネジメント
- ・ジグソー型のアクティブな校内研修の実践
- ・子ども一人ひとりの育ちに着目した授業検討
- ・学びの深さと「内容」「能力」の関係
- ・「日本版カリキュラム・デザイン」と授業構想
- ・「汎用的能力」とALの関係を整理する
- ・子どもと学びをアクティブへ繋ぐ三つの視点
- ・「解釈（わかる）」「選択（えらぶ）」「創造（つく

る）」

第2章. 主体的・協働的な学びを目指す授業づくり

- ・「子ども」の捉え方で授業が変わる
- ・「社会脳」の発見と協働的な学び
- ・協働的な環境の中でこそ「協働的な社会脳」が育つ
- ・協働できる能力と知識・理解の関係
- ・アクティブ・ラーニングと特別支援教育
- ・子どもが自分たちの協働で展開させる授業（国語）
- ・子どもの「発言や体験」を指導材料にする
- ・アクティブ・ラーニングを妨げる「なぜなぜ発問」
- ・「なぜなぜ発問」を「するため発問」に書き換える
- ・相槌型授業とバスケ型授業
- ・子どもの試行錯誤と間違いを許容する集団文化が
 - アクティブ・ラーニングを支える土壌になる
- ・「生産的失敗」という実践的研究の成果
- ・思考と学びのアクティブ度は「ひとつ」ではない
- ・低学年の習得的内容でもAL化は可能だ
- ・主体的—協働的学びは教材の「共材化」が要
- ・意図的・計画的な「振り返り学習」の充実
- ・変わる大学入試選抜の方法と内容
- ・今後の大学入学に必要な能力の特徴は「速成に向かない」
- ・ALへの挑戦は子どもと教師の双方成長・熟達に働きかける

発送先住所 〒 —	発送先 勤務先・自宅
担当（ご注文）者名	
学校名	連絡先 ☎ — —
	注文冊数 冊 公費 ・ 私費

350-0811 埼玉県川越市小堤 658-4 (有)教育報道出版社
 ホームページ <http://www.e-hodo.com/>
 ブログ 「アクティブ・ラーニング 考え合う響室づくり」

ご注文受付 ファックス 049-299-7738
 注文連絡用メールアドレス kyouiku@e-hodo.com
<http://blog.livedoor.jp/kyouiku39-smile/>